平成１８年度　第４回　コミュニティバス等検討委員会　会議録

日　　時	平成１９年４月２０日（金）９：３０～１１：１０
会　　場	北館４階　教育委員会室
出 席 者	会　　長　正司　健一 副 会 長　土井　勉 委　　員　亀田　吉信・坂本　登　・海士　美雪・亀山　昌也 　　下谷　富雄・濵田　士郎・徳満　文昭 事 務 局　行政経営課・道路課 コンサルタント　国際航業株式会社
会議の公表	■　公　開　　□　非公開　　□　部分公開
傍聴者数	０　人

１　議 題

（１）芦屋市の公共交通のありかたについて

（２）最終報告書について

（３）今後の取り組みについて

☆上記の議事について説明を行い，以下の意見交換を行いました。

＜主な意見（○：委員/●：事務局）で表記，意見に対する回答（⇒）で表記＞

（１）芦屋市の公共交通のあり方について

○P46，P47（施策の展開：表）が時系列を表しているのか，重要度を表しているのかわかりづらい。読み方の説明を加えてもらいたい。

○順序に狙いがあるのなら順番に書いたらいいし，特にないのならば大きく短・中・長のグループ分けでも良い。

⇒●表現を再考する。

○P46，P47，P48，P53 などで施策展開の内容が少しずつ違う。

○順序があるなら明記を。あるいは従来（第３回委員会まで）の表記に合わせて欲しい。

⇒●順序を合わせる。

○3.5.2 組織の話で「コーディネート能力」を強調しているが、実際に市はそれを持てるのか。

⇒●難しいとは思うが，行政としてそういう事が求められると考えた。

○「市民との参画協働を推進する組織になっていく，」という表現にしては。

○地域公共交通会議の位置づけと考えると，Ⅰ～Ⅲのフェーズを辿っていては遅く，同時にやっていく必要がある。

⇒●一足飛びには難しい。

○コーディネータとして力のあるキーパーソンを見つけることが重要。まずは地域公共交通会議の枠組みにはめこんで、実際に動かしていくことが重要。

○市に公共交通の専門部署があるわけでもなく、まず事業者との協議でも大変なのでは。会議を設置するにしても、参加者に専門家は少ない。

コーディネータもそう簡単には見つからない。ならばいっそ県や国から紹介するということでもいい。市にどうするのかを問うだけでなく、協働していけるように。

○地域公共交通会議は半ば義務化のようになってきていて，県下の各市町で懸案になっている。専門家がいない中、誰がリーダーシップをとっていくかが問題。

○国を除くと、これまで公共交通政策は置き去りにされ、事業者にまかせきりだった。専門家の協力を得ながら、行政もコーディネート能力を養っていく必要がある。事務局として成長させるという意味では，この組織の考え方は理解できる。もし（バス問題について）切迫感がない，あるいは急ぐ必要がないのであれば，「じっくりと考えて作る」「合意形成のステップを踏む」ことの意味はある。

○コーディネータは重要。住吉台くるくるバスは地域主体で取り組んできたが，外部から専門家が入ったとたんに事態が動き出した。まずは「行政が力をつける」というステップを示したものであれば，考え方は評価できる。ただ，細分化してステップをきっちり踏もうとすると「個別の課題解消」型の組織になってしまって，大きな目標が見失われる不安もある。

○地域住民がリーダーシップを担わないと誰も利用しない。

○地域交通会議を立ち上げるかどうかについて、記載は必要ないか。

⇒○P50 で書かれている委員会を公共交通会議と位置づければよい。ただし、法定要件にあったものにする必要がある。

○P51 の「コーディネート能力」という表現は外した方がいい。P52 でも意味合いが混乱しそう。ここではサポーター，ファシリテイター的なものを意図している。

○P52 で専門家をコーディネータと呼んでいるのは少し違和感がある。P51「実現へとつなげていく組織が必要」でよい。専門家は「呼び込み」ではなく「参画を得る」などがいい。

○現状では専門家もコーディネータもいないので、それぞれを育成していく必要がある。

○コミバス等の会議に出るときは、まず（地域の）バスに乗ってみることにしている。芦屋市の場合でも、担当者がまず乗ってみる必要がある。コーディネート能力のようなものは体験から出てくる。事業者に対する説得力も（バスを実際に使っていると）ぜんぜん違う。大切なのは地域を知ること。どういうバスがいいのか，必要なのかは実際の利用実態を見るのが一番。

○今回，委員会に入ってからいろんなバスを見るようになった。バス停の二次元バーコード（ＱＲコード）経由で携帯電話から運行情報が入手できるようになっており，驚かされた。計画も重要だが，トップダウンに囚われることなく，住民の意識に入らないといけない。役所がコーディネータとして住民を巻き込むことを優先して欲しい。

○P45「業者を行政が」には〝市民とともに〟という文言があるといい。市民を交えた議論をすればもっとニーズがわかる。P46 の「情報周知」についても、市民の立場があるとわかりやすい。

○P25 で引用した小見出しが１・２・４と飛んでいるのが目立つ。

⇒●体裁を考慮する。

（２）最終報告書について

〇この報告書はどう活用されるのか。

⇒〇報告書は設置要綱に基づいて委員会から芦屋市に提出する。それをどうされるかは芦屋市の判断。

⇒●積極的に周知する段階ではないと考えているが，説明を求められたら開示はしていく。

〇組織のあり方は変わっていくもの。流行りの言葉でいえばスパイラルアップ。形を作って安心してしまわないように。今回の結論にどう考えて辿り着いたのか。初心を忘れず変化していけるように。

〇P39，P42 で、基本的な考え方を大切にするような表現を加えるなど検討してもらいたい。

〇アンケート回答者の４割が自由意見を記述しているというのは期待されている。

〇施策の方向で、走行環境にかかる部分が出ていない。

〇アンケート自由意見をすべて生のまま掲載する必要はあるのか。取捨するのも難しそうだが。

⇒〇委員会としては，全部（市に）渡して，適切に活用してもらうというスタンスでよい。

〇アンケート自由意見の誤字などについては，意味がとおる範囲で修正していいのではないか。また資料については以下の修正を施すということで，座長と事務局で取りまとめてよいか。

◇P39，P42 の表現の追加

◇P46，47 のスケジュール表をわかりやすく修正

◇広報関係の周知（市民と一緒にする）

◇3.5.2　表現から〝コーディネート〟を外す

◇〝専門家を呼び込み〟を外す

◇〝専門家＝コーディネータ〟を外す

⇒〇了承

（３）今後の取り組みについて

〇平成 19 年度は，事業者も含めた〝路線バス活性化のための委員会〟として継続したい。

〇当初の「コミバス導入検討」という話から，「（芦屋という）コミュニティにおけるバスのあり方」という話にシフトしていけてよかったと思っている。委員各位のご協力に感謝する。

〇今年度の委員会は，市民に熱意を持たせ具体的なアクションにつなげていく役割だと考えている。

以　上